

平成30年度 佐賀県立鳥栖商業高等学校 学校評価結果

1 学校教育目標 生徒一人ひとりの「生き抜く力」を育み、経済社会の変化に十分対応でき、平和な国家および社会の有為な形成者として、幅広い知識と豊かな心を有する、専門的知識と技能を身に付けた、心身ともに健全で実践力に富んだ人間を育成する。	2 本年度の重点目標 ①自ら考え、行動できる生徒を育成する ②自分と他人を愛することができる生徒を育成する ③夢の実現のためにベストを尽くす生徒を育成する ④失敗を恐れずチャレンジできる生徒を育成する ⑤業務改善を図るとともに、綺麗で安心な学校をみんなで作る
--	--

達成度 A:ほぼ達成できた
B:概ね達成できた
C:やや不十分である
D:不十分である

資料2

3 目標・評価						
①自ら考え、行動できる生徒を育成する						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)
学校運営	教職員の資質向上	教材研究や授業の積極的開催による授業力の向上	・全職員が授業を複数回実施するとともに、他の職員の授業を積極的に参観する。	・協力して授業の指導案の検討を行う。他教科とも共同の授業研究会を実施し、効果的指導方法の共有を図り授業力向上を図る。	B	・初任研との関わりもあり、授業の実践が多かった。 ・教科を問わず積極的に複数回参加する職員も多かったが、実施授業時間との兼ね合いで参加が困難であったり、短時間になることもあった。
教育活動	●学力向上	・県下一斉就職希望者学力テスト成績向上 ・家庭学習時間を増やす	・県下一斉就職希望者学力テストの上位100位以内に15名以上 ・家庭学習時間を平日平均1時間以上	・事前模擬テストや対策学習会などの実施 ・家庭学習を増やす呼びかけや学習用PCを使ったICT教材の提供	B	・各学期ごとに成績が振るわない生徒に対し、学習会を学期ごとに実施した。 ・学習状況調査では、家庭学習が十分でない実態が明らかになった。 ・県下一斉就職希望者学力テストの上位100位以内に17名と目標は達成できた。
教育活動	●心の教育	読書を通して豊かな心を育み、自尊感情を高める	・図書利用者の拡大、貸出冊数・利用者数の増加 ・生徒が多くの本に触れる機会を作る。 ・朝読書の充実	・図書委員会を中心にイベントなどを企画し「魅力ある図書づくり」を目指す。 ・シブレンスサービスの充実、移動図書館など生徒が本を借りやすい環境をつくる。 ・朝読書は全校(職員を含む)で取り組む。	A	・貸出数、利用者数ともに昨年度と比較し大幅に増加している。(1人当たりの平均貸出冊数10.9冊)三神地区の高校では、トップの成績である。今後は、「読書の質」を高めるような指導力を入れていきたい。 ・「朝読書」は全職員で協力する体制ができている。 ・「芸術鑑賞会」などの情報発信を通じ、道徳的な意識や価値観を養う機会を生徒に提供できた。
教育活動	○学校の活性化	・自主的な行動 ・地域貢献	・自ら考え行動する ・自主的な校内外のボランティア活動を通して、奉仕の精神、他者への思いやりの心を育む。 ・部活動の活性化	・行事等を自ら企画し、運営していく ・校内外の清掃活動やボランティア計画、施設への慰問活動などを生徒が企画し実施する。 ・生徒全員を部活に加入させ、積極的な活動を促す	B	・市内の清掃活動を行い、感謝された。 ・ボランティアでの清掃活動や、慰問などを積極的に行った。 ・各部活任任せているため、生徒会の関与は少なかった。
教育活動	○教育の質の向上に向けたICT活用教育の実施	新たな学び方としてのICT利活用	・生徒が主体的で深い学びのできる教材を教科ごとに研究する。 ・生徒への授業評価アンケートにより、ICTの利活用を効果的であるという生徒の割合を80%以上に上げる。	・他教科とも共同の授業研究会を実施し、優れた指導方法の共有を図る。 ・研究授業や合評会など積極的に参加し、全職員で教材や指導方法について協議する。	A	・生徒へのICTの利活用アンケートにより、全学年90%を超えて活用しているという結果であった。 ・初任者の研究授業等において、ICTを活用した各教科の教材や指導方法について、協議する機会が増えた。
②自分と他人を愛することができる生徒を育成する						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)
教育活動	●いじめ問題への対応	いじめ事案撲滅と未然防止及び早期対応	・いじめと疑われる事案が発生したら、3日以内に対応を開始する。 ・生徒指導、教育相談、担任、顧問と連携して、生徒が相談しやすい雰囲気を作る。	・いじめアンケートを年3回実施する。 ・三者面談や面談週間では必ずいじめについて言及する。	A	・いじめアンケートを2回、OUアンケートを1回実施できた。生徒の訴えによるいじめ事案への対応は3日以内に開始できたが、アンケートによる実情把握には1週間程度かかった。 ・クラスで協力して取り組む新たな活動や行事(高1:宿泊研修の集団訓練、高2:チャレンジフーズ)を行ったが、クラスの協力姿勢はできたと感じる。
教育活動	○マナー教育の充実	規範意識や自尊感情を高め、感謝の気持ちや思いやりの心を育てる	生徒指導部による再検査率を生徒数の10%以下にする。	・身だしなみ指導前、頭髪などについて呼びかける。 ・各種講演会の計画・実施	B	・全体では減少傾向であるが、3年生については例年より若干増加傾向にあった。内容としては頭髪よりも服装が今後の課題である。 ・講演会では情報モラル教育にも力を注ぐことができた。
③夢の実現のためにベストを尽くす生徒を育成する						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)
教育活動	○商業教育	資格取得の充実および商業教育の可視化を目指した取組みの構築	○資格取得の充実における各種検定の目標合格率および取得率 《簿記関連》 ・全簿記検定2級合格率90%以上(1年商業科) ・全簿記検定1級合計75%以上(2年商業科) ・全簿記検定1級原簿計算85%以上(3年ビジネスコース、2年会計コース) ・日商簿記検定2級取得率60%以上(2年会計コース) 《情報処理関連》 ・全情報処理検定3級合格率100%(1年商業科) ・全情報処理検定1級70%以上(2年情報科) ・全情報処理検定1級ビジネス情報部門合格率70%以上(2年情報科) 《流通経済関連》 ・全商業経済検定3級100%(1年商業科) ・全商業経済検定マーケティング合格率70%以上(2年流通経済科) ・日商リテールマーケティング検定3級合格率60%以上(3年流通経済科) 《その他》 ・全商検定1級多科目(3科目以上)取得者の増加および高度資格取得者の拡大 ○商業教育の可視化を目指した取組み目標 ・社会性やコミュニケーション能力の向上、自主的な生徒の育成を図るための新たな取組みの実施	・検定科目については、チームティーチングで習熟度別指導を行う。 ・簿記・情報処理・マーケティングは、各検定直前週に特別指導補習を行う(日商簿記検定2級の受験対策として週2回の副特講を実施)。 ・外部講師招聘による授業や講演会の実施 ・地域のイベントや研修会の積極的な参加やコンテストの応募など校外活動の機会を増やす	B	○各種検定における合格率(結果) 《簿記関連》 ・全簿記検定2級合格率(1年商業科) 78.2% ・全簿記検定1級合計(2年商業科) 53.6% ・全簿記検定1級原簿計算(3年ビジネスコース、2年会計コース) 52.0% ・日商簿記検定2級取得率(2年会計コース) 未定(2月24日検定受験予定) 《情報処理関連》 ・全情報処理検定3級合格率(1年商業科) 88.6% ・全情報処理検定1級70%以上(2年情報科) 88.2% ・全情報処理検定1級ビジネス情報部門合格率(2年情報科) 87.9% 《流通経済関連》 ・全商業経済検定3級(1年) 76.3% ・全商業経済検定マーケティング合格率(2年流通経) 92.3% ・日商リテールマーケティング合格率(2年流通経) 43.2% 《その他》 ・全商検定1級6科目取得者が3名、7科目取得者が1名、意欲的に資格取得に取り組む生徒が多かった。 ・流通経済科では商品開発を行い、クラウドファンディングの販売を行った。また、佐賀県高等学校生徒研究発表大会で最優秀賞を受賞し、九州大会へ出場した。 ・検定取得に向けた補習や個別指導、外部講師などによる講演などを実施し、指導の充実を図った。
教育活動	○心技体の育成	・文武両道を旨とする ・部活動や生徒会活動の広報	・各種部活動で全国大会出場や研究大会の入賞、大会や競技会などで入賞を果たす。 ・部活動を通して、達成感や自信、自己肯定感を育ませ、将来の夢や希望を持たせる。	・部活動での取組を校内に披露する機会や、大会出場の情報や入賞、受賞の際の表彰などをメディアとの協力を得て、校内外に周知する機会を増やす。	A	・運動部のバレーボール部やテニス部、文化部の情報処理部や簿記部、OAO部などが全国大会に出場するなどしっかりと成果を挙げた。 ・部活動での肯定感も育めた。 ・全国総文祭に向けて各文化部のより一層の活性化を進めていく。
④失敗を恐れずチャレンジできる生徒を育成する						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)
教育活動	○キャリア教育の充実	生徒のキャリア観の育成	・キャリア教育を通して、生徒の進路について考えることができた割合を95%以上に上げる。	・1年次では進路啓発事業、2年次ではインターンシップ、3年次では進路実現などの活動を通して、将来の進路について考えさせる。 ・キャリアガイダンスの実施および外部説明会への積極的な参加を推進する。 ・外部講師を招き、望ましい勤労観や職業観についての講演会やマナー講習を実施する。 ・LHRや学年集会などを利用して進路学習を実施する。	B	・1年次での進路啓発事業は、訪問企業に事業の目的を伝え、その目的の達成ができる内容とすることができた。2年次のインターンシップも就業体験を行うことができた。 ・キャリアガイダンスを実施することにより、より具体的な目標設定を行うことができた。また、外部講師を招いての講演・講習も生徒のキャリア形成に大きく貢献している。 ・各学年ごとの計画的な進路学習を行うことが現在不十分であると考えるので、そこが課題である。
教育活動	○進路希望の達成	生徒の進路実現	・進路内定率(就職・進学)100%を達成する。	・2年次から面接指導を行う。 ・就職希望者は、夏休み学習会を行い、学力向上に努める。 ・進学期補習や小論文指導などを行い、生徒に積極的な参加を促す。 ・公務員対策講座を開催する。	A	・今年度も進路内定率(就職・進学)100%を達成することができた。学習会や面接指導の成果があった。
⑤業務改善を図るとともに、綺麗で安心な学校をみんなで作る						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)
教育活動	●心の教育	感謝や思いやりの心の醸成	・清掃活動を通して勤労意識や環境美化意識を高めるとともに「学校をきれいにしよう」という意識を持たせ、ゴミゼロを目指す。	・全校集会等を利用して、生徒美化委員による「学校をきれいにしよう」という呼びかけを徹底して行う。	B	・美化委員長が積極的に動いてくれ、美化委員のチェックや完生方の呼びかけのおかげで、各教室の不要なゴミは、少しづつ減ってきている。
学校運営	●業務改善・教職員の働き	校務等の効率化と教職員の連携促進	・単純な前例踏襲でない、効率的な業務遂行を工夫する。 ・明るい職員室づくりをめざし、使命感と熱意にあふれ、教師力の向上に努める職員集団を目指す。	・運営委員会を中心として、行事・企画を精選するとともに各セクション間の連絡を密にすることで連携強化を図る。 ・明るい挨拶と笑顔、感謝の言葉が飛び交う職員室になるよう働きかけ、生徒と落ち着いて向き合える雰囲気を作る。	B	・各分掌、係の課題点を全職員で共有することが概ねできた。 ・クラス数減にともなう人員減や働き方改革関連法施行等も動かし、業務の効率化や見直しを図れるよう各分掌で工夫を重ねていきたい。
学校運営	○安全な学校	交通事故や生活事故件数を減らす	・発生件数を前年度比の50%以下にする。	・事故発生事例を適宜生徒に周知し、交通事故が発生しやすい状況の周知を図り、自ら危険防止のための対策を取るよう粘り強く指導する。 ・学期に1回程度、PTAで交通指導を行う。	B	・交通事故4件(H29 6件)何れも軽微な接触によるもので、大きな怪我等はなかった。全てが路地又は店舗から出てきた車両との事故である。
本年度の重点目標に含まれない共通評価項目						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)
学校運営	○情報発信	ホームページの充実	・ホームページの更新頻度を高め、地域、保護者、生徒が見たくなるページの工夫を行う。	・学校行事終了後速やかに行事の様子を掲載することができた。学校の様子を伝える「鳥栖商の日々」では写真を多く使用しているため、修学旅行などの記事は閲覧数も多かった。 ・鳥栖商だよりを月に1度発行し、三神地区の中学校や教育委員会にも送付した。さらに昨年度より読みやすさやセンター欄に協力していただき、250部を各地区の回覧板に載せていただき、地域の方々にも学校のことを知らせることができた。	A	・各行事ごとのホームページの更新は遅やかにできているが、その他の部活動の紹介など、内容の充実を図る必要がある。また、ホームページの中身で、長期間更新されていないところは、今年度中に更新をしていく。 ・地域の方々にも鳥栖商だよりを読んでもらう機会を設けているので、その方たちとの連携を密にし、地域貢献できる機会を増やしていきたい。
教育活動	●健康・体づくり	望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	・保健だよりやアンケートを通して朝食をとることの意義の理解・啓発を行い、朝食をとって登校する生徒の割合を90%以上に上げる。	・「保健・食育だより」の毎月発行 ・食についての講演を依頼し、昨年度講演を聞いていない1・3年生に食について再考する機会を与える。 ・効果的な食育推進のための食育活動実践モデル研究事業に応募する。	A	・生徒保健委員会の活動の一環として、保健・食育だよりを毎月発行し、健康に関して啓蒙活動を行うことができた。 ・食育講演会・食育アンケートを通して、生徒が朝食をとることの大切さを再認識し、日頃の食習慣を見直すよい機会になった。 ・効果的な食育を推進するため食育活動実践モデル校となり、生徒たちの反応を鑑み、食育の重要性を改めて感じた。
4 本年度のまとめ・次年度の取組						
本校の特徴である進路指導については、好況や人手不足等もあり、大変よい結果を残すことができたが、進路に対しての危機感が薄れないように、次年度キャリア教育に工夫を図ってきたい。いじめ問題や心の教育については、特に大きな問題はなく本校の伝統として「気持ちのよい挨拶」励行と、ボランティア活動等を通してある程度の地域貢献を果たすことができたが、さらに拡充を図ってきたい。						

●は共通評価項目のうち必須項目、◎は共通評価項目のうち特定課題、○は独自評価項目